

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』	b 経営理念(ミッション・ビジョン)	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	・社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 ・主体的な学びが育まれる学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校
----------	--------------------	--------------------	----------------------------------	---

評価計画					自己評価					改善方針	I 学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評価			コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力の育成	主体的・対話的で深い学びの創造	自ら学ぶ中で の学力向上 共に学び合う 集団づくり	○学び合いを通じた授業づくり、教師のファシリテート力の向上 ○指導者用デジタル教科書の積極的な活用 ○ICTの効果的な活用による授業改善 ○学力分析に基づく学力向上の取組 ○R80による振り返りの実施 ○小中連携による授業研究	単元テスト(国語・算数・理科)の通過率	80%	83%	82.3%	103%	A	単元テストの通過率は、全校の平均で80%を超えることができた。しかし、学年ごとにみると超えていない教科があり、国語では3つの学年、算数では2つの学年が80%を下回っている。特に算数科の数値が低い傾向がある。 単元テストで達成率が80%を超えている児童の割合は国語72%、算数62.7%、理科75.3%であった。国語と算数の割合が上がっており、児童間の学力差も縮みつつある。	引き続き、授業改善に向けた研究に取り組んでいく。研究授業の前後で学びを共有したり、日頃から授業や教材研究について振り返る時間をとるなど、教員の授業力向上にも努める。また、担任以外の教員と連携した複数体制のドリルタイムを実施するなど、今後も計画的に学習の時間を確保し、学力の定着を図っていく。 R80を活用し、振り返りを充実させることで、児童の学習意欲を高めたり、学習習慣の定着を図ったりしていく。	○			・「まずは自分で考える」その上で「他者と意見を出し合う」ことで学ぶ効果が上がっている様子がよく分かった。 ・学び合いを通じた授業づくり、小中連携による授業研究をさらに進めてほしい。
		家庭学習の充実	○家庭学習の習慣化 ○学習チャレンジデーの充実 ○読み・書き・計算の徹底につながる学習活動の推進	児童アンケート「学習チャレンジデーで自己で定めた目標ができた」の肯定的評価の割合	80%	91%	92%	115%	A	学習チャレンジデーにおいて、ほとんどの児童が自己選択し学習に臨むことができてきた。しかし、難しい児童が一定数おり、家庭学習の定着にも課題がある場合が多い。 全学年で目標値は上回っており、個々の学習や主体性の育成につながっている。しかし、読み・書き・計算の徹底につながっていない場合も多く、量だけではなく内容の充実を図っていく必要がある。	学習チャレンジデーでの成果や取組をまとめ、学級だけではなく、学校全体や保護者などと共有することで、児童の意欲を高めたり、内容の充実を図ったりしていく。 家庭学習での課題として、ミライシードや反復ドリル、児童一人一人の課題克服に向けた学習プリント等を活用していく。内容の充実を図り、引き続き基礎的な内容の定着を図っていく。	○			・学習チャレンジデーのさらなる充実を期待する。 ・学習習慣が早い時期に定着すると学力定着にもつながるので、ぜひ定着するように取り組んでほしい。
豊かな心の育成	自己肯定感が高い豊かな子供の育成	基本的生活習慣の確立 不登校の未然防止 地域貢献意識の向上	○生活上の基本事項の指導を徹底(時間・挨拶・掃除) ○児童会による自治活動の充実 ○生徒指導の三機能を活かした指導支援、集団づくり ○相談体制の充実、小中連携の充実 ○体験活動の充実(自然・文化・地域人材)	児童アンケート ①「自分から挨拶をした」 ②「よりよい学校、学級にしようがんばっている」の肯定的評価の割合	ともに90%	①86% ②94%	①94% ②92%	①104% ②102%	A	「自分から進んで挨拶をした」は、94%の児童が肯定的にとらえており、「よりよい学校、学級にしようがんばっている」は、92%の児童が肯定的にとらえている。②が中間評価から少数値を減少させたものの、目標値は達成することができた。	児童会による「あいさつの花」の取組の効果もあり、自分から挨拶をする児童が増えた。 また、「久井小の宝放送」などを継続して行っていることで、友達のよいところを真似し、良い行動をしようという雰囲気が出来上がっている。	○			・児童会による「あいさつの花」の取組に期待する。 ・児童同士で、友達の良いところを紹介し、広げられていることはよい。
健やかな身体の育成	体力向上と健康教育の推進	新体力テストの分析による重点課題への取組 健康教育・食育の推進	○新体力づくりテストの分析に基づく体育科授業の工夫改善(全国平均以上を目指す) ○外遊びの奨励 ○児童会企画の縦割り遊びの充実 ○「金のルール」「食育」に基づく生活指導(早寝・早起き・朝ご飯・食のバランス)	児童アンケート「運動が好き」の肯定的評価の割合	90%	83%	83%	92%	B	「運動が好き」は、83%となり、目標値を達成することができなかった。また、4年生は80%を下回るなど学年により、運動への意欲には差が見られる。運動が好きな児童を増やしていくために異学年交流を奨励してきたが、もっと児童が継続的に外で遊びたいと思うような具体的な遊びの紹介も必要であった。	異学年交流としての「仲もーり」に合わせて、学級や小集団で遊べるような具体的な外遊びを紹介し、児童の外遊びをさらに奨励していく。 また、2学期後半から全校で取り組んでいる短縄跳びや、縄跳びカードを有効に活用して体育朝会や学級活動・体育の授業を改善していく。	○			・課題のある児童もいるが、全体で見ると達成度は高いので、よく取り組んでいる。 ・異学年での取組を進め、積極的に体を動かし体力を伸ばす取組を進めてほしい。
働き方改革の推進	ワークライフバランスの確立	開かれた学校づくり 教職員の資質向上 不祥事根絶 長時間勤務の縮減	○積極的な情報発信 ○上限目安時間を超えない時間管理(45時間/月) ○週1回(水曜日)の定時退校日の徹底 ○ボトムアップによる業務改善 ○働く者の意識改革・醸成(ワークライフバランス)	保護者アンケート「本校の教育活動に満足している」の肯定的評価の割合	80%	94.3%	85.1%	106%	A	保護者アンケートでは、肯定的な評価が85.1%となっており、本校の教育活動におおむね満足しているという回答をいただいた。	今後も、開かれた学校づくりに向け、積極的な情報発信を行い、児童が安心・安全に過ごしていくための教育活動、信頼される学校づくりに向けての取組を推進していく。	○			・アンケートの取り方を工夫することにより、保護者の啓発につながっている。 ・保護者・地域への情報発信をさらに充実させ、信頼される学校づくりを進めてほしい。
		時間外の在校時間 月45時間以内の職員の割合	100%	92.8%	87.3%	87.3%	B	職員の状況を把握し日常的な声掛けを行った。年度当初と学校発表会のあった月は、時間外勤務が多くなる職員がいたが、成績処理週間の取組や声掛けなどを行っていく中で、減少していった。その結果時間外勤務平均45時間未満の職員が87.3%となった。	組織的な学校教育活動を進めるため、学校経営会議等を生かして主任・主事に見通しを持たせ、職員が計画的に業務を進めていくことができるようにしていく。計画的かつ見通しを持って業務を進めることで、組織としての自校における働き方改革を進めていく。	○			・多忙期は困難だと思いが、メリハリをつけた勤務をして、組織的に働き方改革を進めてほしい。		

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) C: 60≦(もう少し) < 80
B: 80≦(ほぼ達成) < 100 D: (できていない) < 60

【I: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である
ロ: 自己評価は適正でない ハ: わからない